



震災の応援に行った際に、「今、何が必要ですか？」の問いに、オジイちゃん「人の優しい心」と言ったことが印象に残った。

被災して、被災した人のことが、深く分かった。被災者の立場にたつて考えること、他人の心を思うことが「心ある人」、それが分からない人は、自分の心もない「心無い人」。今年は大変な年だと思ったが、自然はどうしようもない。人生いろんなことが起こるのは当たり前。たくさんの方の応援があったし、泣きたい程優しい支援も受けた。人生なかなか良い。

年少さんを「竜の子山」に連れて行った。芝すべりを始めたが、子ども達はとうとうまっくれない。では、園長が見本をーとやってみせた。流石に長い経験と体重。軽快に(??)そして、どんどんスピードが出た。突然、ガツンと尾てい骨を打った。草むらに隠れた穴があった。未だに座ると痛い。目に見えない突然の災害。事故はよくあること。それでも、子ども達以上に遊ぶので、よく怪我をするが、子ども達との生活が実に楽しい。人生、目に見えない障害もある。良いこともあれば、悪いこともある。でも、楽しもう。

来年はきっと良い年になる。良い年にする。

行事予定表

3	火	消防署見学(5歳児) 絵本の読み聞かせ(5歳児)
4	水	わくわく交流会(5歳児)
5	木	交通安全教室(2歳児以上)/子育てサロン
10	火	ピヨピヨひろば
11	水	観劇(10:00~)/おべんとうデー
12	木	カレーの日
17	火	巡回相談
18	水	クリスマス会
19	木	子育てサロン
20	金	避難訓練
26	木	誕生会
27	金	保育納めの会

今月の予定の中から

●消防署見学(3日)

・5歳児が保育園から牛久消防署まで徒歩で向かいます。消防自動車や救急車の見学をしたり、消防服を着せてもらったりする予定です。雨天の場合は中止です。

●読み聞かせ(3日)

・宮本先生と栗山先生のお話を集中して聞けるようになってきたので、14時から絵本の読み聞かせをして頂く事になりました。

●わくわく交流会(4日)

・5歳児が牛久二小の2年生と交流を楽しみ、就学への期待に胸膨らませます。就学を見据え、上靴の使用と管理、所持品の始末も子ども達自身が行えるようにと考えています。

●観劇(11日)

・観劇内容は「今井浩之ひとり人形芝居」の「おさるのおしり」「それいけ！ももたろう」です。今年も保護者会費からご協力頂きました。※今回は、ご希望の保護者の方々もご覧頂けます。(ご希望の方は担任にお伝え下さい)。

●おべんとうデー(11日)

・今月は変則的に第2水曜日がおべんとうデーです。お弁当には通年で保冷剤を必ず入れて頂きますように、宜しくお願いします。

●カレーの日(12日)

・5歳児は、年間を通して買い物係・野菜洗い係・釜戸係・配膳係などの役割を体験していきます。異年齢児交流を繰り返す中で自然な交流が園庭や園内で沢山見られるようになり、大変嬉しく思います。

●クリスマス会(18日)

・今年はクリスマスのきらびやかな雰囲気子ども達に感じて欲しいと考えています。クリスマスソングを歌ったり、サンタさんに手紙を書いたり、夢見る気持ちを大切にしたいですね！

●避難訓練(20日)

・地震の後、近隣のアパートが火事という設定



です。緊張感を感じながら避難訓練を行います。

●誕生会(26日)

・年に1度の誕生会にとって大切な日。今月は先生達の劇「十二支のおはなし」です。

●保育納めの会(27日)

・全園児でホールに集まって今年を振り返る集会後、日頃の感謝を込めて、各保育室を子ども達と大掃除をします。

★お知らせ☆お願い

★年末・年始は12月29日~1月3日まで休園です。年末年始にお休みの予定のある方は担任にお知らせ下さい。特に年末年始の土曜保育(12/28 1/4)の利用の有無は分かっていた時点でお知らせ頂けると大変助かります。

☆保育園へ着てくる洋服は汚れても良い服装でお願いしていますが、スカートのついているズボンも怪我に繋がる為禁止です。普通のズボンでお願いします。

☆1月17日(金)の餅つきのお手伝いをして下さる方を募集中です。ご協力を頂ける方は担任までお声かけ下さい。(〆切は12月末です。)

「早教育」

9月にペリープレスクールについて述べましたが、ペリープレスクールのことは、2009年6月と7月にも園便りに書いてあります。ホームページの「理事長の話」を合わせて読んで下さい。▼私達は文字が読める、100まで数えられる、計算ができる、ブロックを組み合わせられる、逆上がりができる、走るのが早いなど、できるできないか、知っているかどうかなど、認知できる能力ばかり重視しがちですが、認知的能力も必要ですが、人生における成功や安定に関わる重要な能力は、自己抑制、忍耐力、意欲、人と関わる力などの非認知的能力です。そういう能力、企業の採用基準では、採用したい人は、認知能力ではなく、こうした非認知的能力がある人でした。▼非認知能力について述べる前に、

知育・早教育について述べたいと思います。本当の子どものことが分からないと、知育・早期教育に飛びつき、脳科学に走りがちです。私も昔、話題となった大脳生理学者時実博士の本を読みあさりました。また、一時期、ソニーの創設者井深大さんが、大脳生理学の研究結果を元にした「幼稚園では遅すぎる」「0歳からの教育」を出版し、幼児教育の世界に旋風を巻き起こしました。講演は何度も聞きました。直接お会いして、お話ししたこともあります。しかし、何か引つかかるものがありました。子どもは脳だけでなく、体も心もあります。そして、計り知れない発達の可能性と、細分化できない能力と、まるごとの人格(体)を持っています。そんなに焦って訓練し、教え込むことで楽しい幼児期を奪って良いものかと思いました。▼井深さんの早期教育へのめり込むきっかけになった、パイオリンの早教育、鈴木メソッドの鈴木先生のところにも行きました。5歳児がメンデルスゾーンのコンチェルトを完璧に弾くのにも私も驚きました。そのうちの何万分の1の成功例を挙げて、誰もが天才になれるような話が出てきます。一人の成功の陰に、失敗してうちひしがれた親子を幾人も見てきました。▼教育は一人ひとりの子どもが、立派に社会人になり、自己發揮して、豊かで楽しい人生を送れるように支援することです。その時代、時代を充実して生きることです。幼児期には、幼児期にふさわしい生活(遊び)を送ることです。井深さんは、晩年になって「教育は早ければ良いという訳ではない、まずはゆつたり、温かい心と健康な体づくりが大切だ」というようになりました。私が脳科学に走らなかつたのは、真の子どもの姿、子どもの発達、子どもはそれはそれで完成した1つの人格であることを、子どもと生活する中で、体で感じ、子どもが大好きだったからだと思えます。

理事長 浅田 精利

